

# 令和5年度

## 尼崎市 認知症地域支援推進員活動報告

### 認知症地域支援推進員について

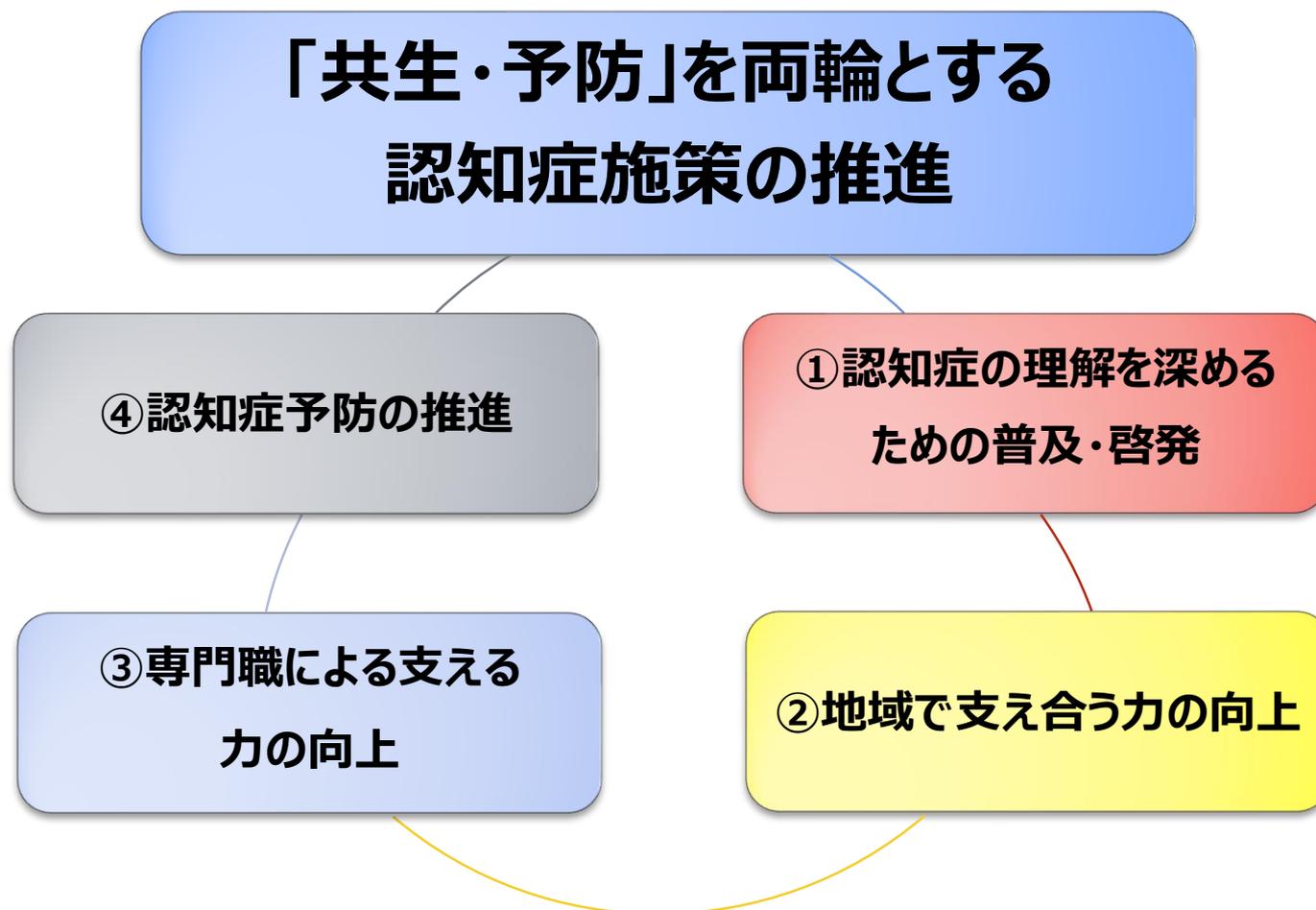
- 1 認知症地域支援推進員：13名
- 2 認知症地域支援推進員の役割
  - ① 認知症の人に対し、その状態に応じた適切なサービス等が提供されるよう地域包括支援センター、認知症疾患医療センター等の専門医療機関をはじめ医療・保健関係者、福祉サービス事業者や認知症サポーター等、地域において認知症の人を支援する関係者の連携を図ること。
  - ② 地域の実情に応じた認知症の人やその家族等を支援するための相談支援や、支援体制を構築するための取組を行うこと。
  - ③ 事業実施に関する企画および調整を行うこと。

報告者氏名：鳴海、瀬野

# 尼崎市 認知症施策全体図

## 【尼崎市 第8期高齢者保健福祉計画の取り組み（認知症関連）】

認知症の正しい理解が進み、早期発見、早期対応につながるよう、また、認知症の人やその家族が安心して、できるだけ長く住み慣れた地域で暮らすことができるよう、次のように取り組みます。



**尼崎市では 認知症地域支援推進員を  
3つの グループに分け活動しています。**

**チームオレンジ尼崎**

本人や家族の支援等のニーズに  
対して支援等する  
市民ボランティア活動  
(1か月に1回程度  
意見交換会開催)

**認知症コミュニケーション講座**

介護に関する学習や同じ立  
場の人との交流の場の提供  
(年4回程度開催)

**若年性認知症サロン**

本人や家族のための  
交流の場、相談の場を提供  
(偶数月の2ヵ月に1回開催)

今回の報告では若年性認知症の人と家族への支援と体制整備  
にかかわる「**若年性認知症サロン**」を紹介させていただきます。

## **【標題】 若年性認知症の人と家族への支援と体制整備**

### **「若年性認知症サロン」**

**対象者：** 若年性認知症のご本人様 ご家族様

**従事者：** 市役所包括支援担当、認知症疾患医療センター、  
認知症地域支援推進員

**内容：** 「こんなことをみんなですてみたい！」  
「こんなことに悩んでいるけどみんなはどうしているのか」など、  
和やかな雰囲気の中で思いを話したい、  
みんなで楽しめるイベント(季節に合わせた内容)を考えたい、  
参加者みんなで作るサロンです。  
なお、今後は介護者同士・当事者同士での交流会や、  
みんなと一緒に交流するなど色々な取り組みを検討しています。



# 【標題】 若年性認知症の人と家族への支援と体制整備

会場によってはできないが  
個別で相談も可能◎

## 令和5年度の活動内容

4月	今年度のそれぞれがやりたい内容を参加者で話し合って決める。
6月	尼崎散策(尼崎城、世界の貯金箱博物館)
8月	相談会、やりたいこと決め
10月	クッキング(やきそば作り)
12月	制作(アイロンビーズキーホルダー)
2月	尼崎散策(三和商店街、寺町通)

偶数月第3土曜日に開催中!



## 【標題】 若年性認知症の人と家族への支援と体制整備

### 活動の様子

ご本人が具材を切って作った焼きそば。お孫様もご参加いただき大盛況でした！



阪神尼崎駅周辺散策。  
(写真は手形通り)  
慣れ親しんだ尼崎の町を見て  
思い出話に花を咲かせました。  
遠出にはバスをお借りし  
車いすの方も楽しめました！



簡単にできるアイロンビーズ。  
ハート等の型で作る方も  
いればご自身の好きなもの  
を作る方もいました！

## 【標題】 若年性認知症の人と家族への支援と体制整備

### 参加者の声

#### 【家族の声】

- ・家族も一緒に参加できてうれしい
- ・2か月に1回の開催が待ち遠しい



#### 【本人の声】

- ・みんなと一緒に話をしたら楽しい
- ・料理したり、出かけたいてきて楽しい
- ・みんなと食べるのが楽しみ

#### <工夫点>

- 活動内容は参加者が決め、やりたいことを実現してもらう。
- 家族が相談しやすい環境をつくる。
- サロンに参加できるように支援者と連携する。



## **【標題】 若年性認知症の人と家族への支援と体制整備**

### **今後の取組予定**

- 参加者のやりたいことを実現できるように支援する。
  - ⇒参加者によってADLが異なるので、活動内容を工夫する。
  - ⇒地域イベントに参加。
- ご本人様への支援はできているが、ご家族様に焦点をあてた内容も充実する。
  - ⇒アンケート等で、家族の思いを把握する。
  - ⇒若年性認知症の人が使えるサービスに関する講座等の検討。
- 若年性認知症サロンや相談先の啓発。
  - ⇒相談できる窓口を知ってもらえるよう、SNS等を利用し広報に力を入れる。

・最後に・・・

当初は1～2人の参加から始まった若年性認知症サロン。  
徐々に人数も増え、現在は十数名にまで増えてきました。  
今後も集いの場として、相談しやすい環境づくりや交流を大切にしつつ、ご本人様やご家族様にとってよりよいサロンになるように試行錯誤を続けていきます！

